

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	
科目名称 [英語名称]	自然緑地計画論 [Natural Open Space Planning]				実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング
科目コード	710040	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	平岡 直樹				学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(1) DP2(2) DP3(4)	
授業概要	<p>本授業の目的は、自然緑地とはどのようなものかを把握するための基本的内容を理解し、その取扱いの技術を学ぶことです。</p> <p>特に自然空間を創造する者として、また一人の市民として関わっていくことの出来る身近な自然緑地を中心として、その歴史と利用の実態、政策、諸外国の事例、及びそれらを有効に長く利用していくための理念と計画技術について学びます。</p> <p>また日常生活と自然緑地とのかかわりも考えます。日本のみを対象とするのではなく、広く世界の都市を見渡し、国際的な視野で学びます。</p> <p>建設コンサルタント(都市計画及び地方計画部門)にて実務経験を有する教員が、自然環境の調査、計画に関する実社会の実例について、写真や図版を用いながら解説します。</p>						
関連する科目	造園学概論を事前に、自然緑地計画論演習を同時に受講することが不可欠です。履修後は、景観論、都市計画論、都市緑地論、建築学概論を履修することが望ましいです。						
授業の進め方と方法	毎回の授業にて、前回の授業の重要と考えられる項目についての小テストを行います。小テストの回答は次回の授業の冒頭に行います。小テストに備えて授業の後でしっかりと復習をしておいてください。授業は、自然緑地の定義や基本理念を講義するとともに、造園計画に関わる技術についても示します。また、理解を容易にするために写真や図版をなるべく多く提示します。自分自身でも自然緑地の中で類似の事例に出会った時の参考となるでしょう。						
授業計画	<p>第1回 講義の内容、位置づけ、目的等の説明</p> <p>第2回 自然系緑地の領域 自然系緑地の領域の全体像の把握</p> <p>第3回 空間特性(立地条件)から見た自然系緑地の分類 自然系緑地の分類と写真による紹介</p> <p>第4回 自然緑地見学会 近隣の自然緑地の見学会</p> <p>第5回 生態系から見た自然系緑地の分類 自然系緑地の分類と写真による紹介</p> <p>第6回 地球環境問題を背景とした自然緑地の位置付け 自然緑地を巡る時代の潮流</p> <p>第7回 日本の自然緑地の現状 自然緑地の概要、問題点を考察 自然緑地の位置づけを多方向から検証します。</p> <p>第8回 自然緑地に関わる施策の概要 法体系と諸外国の制度、条約 環境アセスメント</p> <p>第9回 自然公園の特徴、問題点を考察</p> <p>第10回 森林の特徴、問題点を考察</p> <p>第11回 農村、里山の特徴、問題点を考察</p> <p>第12回 河川、海、湖沼の特徴、問題点を考察</p> <p>第13回 帰化植物の現状と問題点を考察</p> <p>第14回 自然緑地と利用 人間の利用と自然保護の関わりを考察</p> <p>第15回 自然緑地と地域社会 自然公園など実際の自然緑地の計画事例などを紹介します。</p>						
授業の到達目標	1) 自然緑地について体系的に学び、自然環境や社会にどんな役割を果たし、どんな問題点を抱えているかを考える力を身につけ、さらにそれぞれが自らの自然観もより豊かにします。【専門分野の知識・理解】 2) 自然緑地にかかわる専門職業人として必要な基礎的知識や技術を学び、持続可能な循環型社会の実現に向けた課題発見と問題解決をはかる手がかりを身につけます。【専門分野のスキル】【課題発見・分析・解決力】						
授業時間外の学修	第1回目の授業で示す参考図書など自然や自然緑地に関する資料を授業前に読んでおいてください。授業後に理解が曖昧な時は再度精読してください。また、自らの自然観を深め、自然緑地の社会的意義を理解するために、身近な自然緑地に赴き、その成り立ちや社会的な位置づけなどについて観察し考察を深めてください。予習復習2時間程度必要です。						
課題に対するフィードバック	小テストは、採点后に返却し、次回の授業にて解説をします。レポートは採点后に返却します。必要がある時はコメントします。			評価方法	以下の項目に基づいて評価します。①小テスト及びレポート20点②定期試験80点		
テキスト	授業中において配布する資料及び指示する書籍]						
参考書	第1回目の授業(ガイダンス)において紹介します。主なものの一部を以下に示します。①環境省編『令和元年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』、日経印刷、2019②石川徹也『日本の自然保護 尾瀬から白保、そして21世紀へ』(平凡社新書)平凡社、2001③森山、平岡他『ランドスケープアーキテクチャーの起点』ぎょうせい、2007						
備考							